

午前11時10分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き、一般質問を続行いたします。

次に、8番堀尾俊浩議員の質問を許可します。8番堀尾俊浩議員。

（8番堀尾俊浩君登壇）

○8番（堀尾俊浩君） おはようございます。8番議員堀尾俊浩でございます。本日は本当に寒い中、議会傍聴に来ていただきありがとうございます。また、インターネット等で傍聴されている皆様方にも心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

私も議員になり7年と7カ月が過ぎました。これまで多くの方々に御支援を受けながら、議員として活動してまいりました。常に市民の皆様が目線に、また市民サイドの立場で物事を考え、意識し、活動してきたつもりでございます。また、議会活動としては、総務文教常任委員会で6年間勉強させていただきました。そして現在は建設経済常任委員会ということで活動しております。

朝倉市議会議員に挑戦しようとした平成23年の3月11日、皆様方も御存じでしょうが東北大震災がございました。本当にあのときのテレビから見た画面というのは、まさかこの世の世界の出来事じゃないというような形で、非常にショックを受けました。

その年に初当選をさせていただきまして、翌平成24年九州北部豪雨災害、杷木地区で2名の方が亡くなりました。そして昨年が、皆さん御存じのように豪雨災害があり、非常に多くの被害が出、また多くの方々が亡くなられ、また2名の方がまだ行方不明ということでございます。

市のほうとしては、私どもも含めまして復旧復興ということで、精いっぱい頑張っているつもりでございますが、またことしになりますと西日本豪雨災害ということで、幸いなことに死人とかいう形の分はなかったんですが、やはりまた30億円から以上の大きな被災を朝倉市は受けております。こういった災害からの復旧復興、そして災害に強いまちづくりというのも急務の課題といえると思います。

今回は、私は一般質問の中では災害に関してはほかの議員さんにお任せするとして、一般のほかの質問をさせていただきたいと思います。

個人的な考えになりますけれどもいきいきサロン、御存じかもしれませんが、いきいきサロン等でときどきお話をさせていただく機会を設けております。その中で言われることが、議会そして議員あんなたちは何しよるとなというようなことよく聞かれます。それからもう一つ聞かれるのが、朝倉市今何を抱えとるとなちゅう、どげな問題があるとなということも聞きます。

そういった素朴な質問から私を呼んでいただいておりますけれども、それと同時にもう一つあるのが、朝倉市にもっと雇用の場をつくらんとあたしたちの子どもや孫たちが朝倉市に住めんばいとおしかりに近い厳しい御意見も受けます。

そういった形の中で、議会の役割を理解していただくために、二元代表制ということも

説明しております。御存じだと思いますが、市民から選ばれた首長、いわゆる朝倉市でいえば林市長をトップとする執行部と、同じく私たち市民から選ばれました議員、議長をトップとする市議会、執行部の立てた施策、そして実施するための予算、これを私たちはチェックをしながら承認した事業及び予算を執行する執行部で、いわゆる地方自治でのチェック機能であると私たち思っております。

ときにはちょうちょうはっしのやりとりもありますが、しかしやはり市民目線で考えた執行部と議会ともに、ときにはしっかりと手を携えてスクラムを組んでやっていく、ときにはちょうちょうはっしのやり方をやっていく、そういった私たちも市民目線での基準があり、この気持ちを忘れることなく来年の4月まで活動をしっかりと続けていきたいと思っております。

これよりは質問席より一般質問を続けてまいります。執行部におかれましては、明快な解答をよろしくお願い申し上げます。

(8番堀尾俊浩君降壇)

○議長(中島秀樹君) 8番堀尾俊浩議員。

○8番(堀尾俊浩君) それでは、さっそくでございますけれども一般質問に移らさせていただきます。

まず、朝倉市のコミュニティ制度の進捗について述べさせていただきますとともに、質問したいと思っております。

先に申し上げておきますけど、要旨について1番、2番という番号振っておりますけれども、関連ということで話をしていきますのでその辺は御了承いただきたいと思っております。

この制度を朝倉市でスタートさせたのは、私は平成24年と思っておりますが、平成22年という回答が帰ってきておりました。これは協働のまちづくりという方針が出てからだという事であるみたいですね。

以前は、地域別に振興会がありました。これを新たにコミュニティ制度にかえたという、まず素朴な質問ではございますけど、市の導入した目的これをお聞きしたいと思っております。

○議長(中島秀樹君) 総務部長。

○総務部長(鶴田 浩君) 今日でございます。朝倉市ですが、まず合併を控えていた平成17年3月のことでございますけれども、合併前1年でございます。

新市建設計画のシンボル事業といたしまして、元気なコミュニティにより自立するまちが掲げられておったということでございます。これに基づきまして、その考え方に従いましてコミュニティ制度を推進してきたということでございます。

地方分権時代にふさわしい、朝倉らしいまちづくりを進めていくためには、市民の意思に基づくまちづくりと、その実現のための市民と行政との協働が必要であると考えております。

その市民と行政との協働の実現のためには、市民がまちづくりの主体であるという認識

のもとにまちづくりに参加し、行政と協力し合う関係をつくり上げる必要がありました。

これらの課題を解決し、地域に根差したまちづくり、地域住民の思いを生かすまちづくり、それらによって魅力ある地域を実現するためには、地域コミュニティ活動を活発化し、行政と地域コミュニティが適切な役割分担のもとに自立した対等の関係で協力し合い、ともにまちづくりを進めることが必要であると考えたためでございます。以上が、コミュニティ制度を導入した目的でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。自立した対等な考え方、市と市民が自立して対等な立場で物事を進めていく、また市民主体の考え方、まちづくりということをお聞きしました。

今、朝倉市は17のコミュニティ、そして229の自治会といえますか集落があると思います。そこには、この前調べました。11月末でから5万3,500人か、5万4,000人弱の方が生活しておられます。平成18年に、3月20日でしたか1市2町が合併し朝倉市となりました。そのころは一市民でございましたが、現在に至っておるわけでございます。

平成24年、それから平成29年、そしてことしの7月と我が朝倉市は大きな災害に遭いながらも、苦難を乗り越えて少しずつでも前に進んでいると私は思っております。災害に強いまちづくりをする、しかし明るい材料がないというのも事実でございます。

その中で、市がいろんな施策打ちながら、市民サービスに努めていくことは当然でございますけれど、それを確実に進めていくためにも、各コミュニティの協力が不可欠であると思っております。コミュニティを通じて市は市民を引っばっていくといえますか、いい方向にやっぱり協働のまちづくりということでやっていくということが必要になってくるんであろうと思えます。

ちょっとまずお尋ねしたいのは、今17のコミュニティがございますけれど、規模の大きいコミュニティの世帯数と逆に小さい、地域名は要りませんから世帯数をまずちょっと教えていただけますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 平成30年10月31日現在でございます。世帯数につきましては、住民基本台帳上の世帯数でございます。

まず、大きい地区でございます。甘木地区が4,309世帯でございます。それから、立石地区が4,021世帯でございます。一方、小さい地区でございます。高木地区165世帯、松末地区224世帯というようになっております。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 今お聞きしましたとおりでございます。大きいところで4,000世帯を超えている。逆に言うならば小さいコミュニティになれば200世帯を切っているところもあるということで、ほかの地区に関しても同じようなことだろうと思えます。

本当に格差があると思いますし、また考えないかんのはその地域の歴史、もう当然そのコミュニティにありますし、山間部、面積が広いというところもあると思います。また平野部ここは逆に、何と申しますか山間部とは違ういろんな条件があると思います。

それで、一概に同じ枠にはめることができない、しかしある程度足並みをそろえていただかないかんとともあるかと思えますけれど、私が少し疑問に思っていることはコミュニティについてでありますけれど、お尋ねしたいと思えます。市のほうから情報、また市報なんかを介しての情報等もありますけれど、区会長さんを中心に通じて行われております。

それからまた逆に、その地域の諸問題とか地域のいろんな要望に関しても、基本的には区会長さんから通じて行われていると思えますが、役割を整理したいのでお尋ねします。どういうことかといえますと、区会長とコミュニティ会長、この役割というのを具体的にもう少し明確に教えていただければと思っております。よろしくお願ひします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、区会長の役割でございます。これは市の規則で定めておまして、市では区会長設置規則というものをつくっております。その中に定めておることでございますが、市地域行政の円滑な運営を図るため、各地区の区に区会長を置き、市長が委嘱しております。

事務分掌といたしまして、1点目、市の依頼事項を市民に連絡する。2点目、調査または各種配付のもの等につき協力する。3点目、諸証明事務についてその傍証をする。4、その他でございます。

以上が区会長の役割ということになります、一方でコミュニティでございます。これは、市の内部ではございますけれども、地域コミュニティ組織の登録等に関する要綱というのを定めておまして、その中には市の小学校区等を基本単位とし、その区域内に居住するもので構成され、コミュニティの区域内においてまちづくりに関する情報の共有化が図られていると。それとともに、住民が社会福祉の増進、環境の保全、教育及び文化の向上、防犯防災、その他みずからの地域をみずからが住みよくするための活動を主体的組織的かつ継続的に行っていること、これらを条件に組織登録を申請し承認された組織ということになります。組織の登録を申請して承認された組織という形で位置づけをしておることでございます。

これらを全体を取りまとめて言いますと、区会長は行政が委嘱した非常勤特別職と、そして主に市からの情報伝達や市報を初めとする各種配付物の配付、境界立会等の地区代表としての立ち会いということを行う役割があるということになります。

一方コミュニティですが、コミュニティ協議会の会長について申し上げますと、コミュニティ協議会会長は自治組織であるコミュニティの代表者ということになります。市と対等な立場で意見交換を行っていただく地元の組織というふうに認識しております。

こういうように区会長とコミュニティにつきましては、区会長はどちらかといいますと1つ1つの業務についてこれとあれとこれをお願いしたいと、コミュニティにつきましては、その地域をみずから住みやすくするような活動をするような組織だというようなことでございます。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 今の話によれば、区会長は市のほうから委嘱という形で当然あってきます。コミュニティ会長も、これ委嘱されるのかな、じゃない。委嘱じゃなくて、しかしそのコミュニティの代表としての市と対等な立場で物事を判断する。またものを交渉するというような立場というふうに理解してよろしいのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） はい、よろしいです。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。何となくわかってきましたが、具体的に地域によってまたどうも違うみたいな感じですので、コミュニティの中の役割分担とかがその地域地域、ですからもう少しこう施策を実行していく中でもそういった整理もしていけないかとかかなという思いがありますけれど、これはよその地域のこともありますんで私が一概に言えることではないかもしれませんが、ぜひともそこ辺の整理はしていただきたいと思います。

人口減少の進む中で、現在コミュニティ活動の充実というのは大きなポイントになっていると思います。地域での住民の豊かな生活を実現していくのも大事と思われる。またそれと同時に、先ほどもちょっと出ておりましたが、例えば10年先20年先の朝倉市を考えた場合、もっと若い人たちの意見を生かせる活動も必要になってくると思っております。具体的に朝倉市のほうが、職員の方々の提言活動も当然あっております。

それから、ことはちょっと行けなかったんですけど高校生の提言。たしかことは高校生の選挙の参画やったですかね、そういったあれが出ておりました。

それから、災害現場のほうの復旧復興への取り組みの中で、やっぱり若い人たちの思い描く地域像というのもぜひとも取り入れていただきたいと。現実が不可能な場合もあるかもしれませんが、そういった場にぜひとも若い人たちを取り込んでいていただきたいと思うんですが、市として何か取り組みやっておられるのでしょうか。その辺ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 若い人の意見を取り入れるということで、先ほど議員おっしゃいました高校生の提言というのが、今直接的には意見を取り入れるということが言えるかと思っております。

今年度につきましては、選挙へ行く若い有権者をふやすために自分たちができることと

いうことをテーマといたしまして、市内外の高校に意見の発表をしていただいたということでございます。

このこういう提言によりまして、具体的には例えば平成27年度に実施した高校生の提言によりまして、SNSを活用した広報をしたらどうかという提言がございまして、平成28年度からはSNSで朝倉の情報を発信するハッシュタグを高校生とともに考案し、今実施中だと。

続いて、同じく平成27年度ですが、バス利用者をふやすためバス停の整備を行うという提言がありましたけれども、これにつきましては平成28年度にバス停整備のための補助制度の創設を行いました。

平成28年度につきましては、私たちが子どもを持ったときといった提言の中で、さまざまな子育ての提言があったわけですが、これについては平成28年の提言について平成29年度から赤ちゃんの駅事業というものを行いました。子育て中の母親がさまざまなイベントに参加できるように、授乳とかおむつがえなどのできるスペースを確保するという事業でございます。こういった提言に基づく市の取り組みを行っておるということでございます。

これは端的な例でございますけれども、復旧復興に向かいますと私どもといたしましては若者の意見を取り入れたい。その1つとしまして、復興計画の策定に当たりましては若い方、この若い方の定義もいろいろあると思っておりますけれども、青年会議所等これらも若い方といえると思っておりますけれども、そういった委員に参画をしていただく。そのほかの計画にも、若者の意見を取り入れるというふうに行っているところでございます。

さまざまな計画をつくる際には、そういう委員に参画してもらおうということだけではございませんで、アンケートをとるときにも若者の意見はどういうものがあるかということを常に注視しておるということでございます。

それから、直接復旧に関しましては、ボランティアの団体とかが若者を中心として設立されたということも聞いております。私どもとしましては、そういった若者に対しましては感謝を申し上げるとともに、ボランティア活動の育成という面も含めまして支援と、育成支援ということも含めまして、若者の取り組みに対しましてはできる限り市としても力を入れ、それとともにそれらの意見等を聞いてまいりたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。実は安川のほうでも青壮年会というような組織を、まだ具体的な活動はないんですけどいわゆる区会長とか区の世話人さんになる前の、ちょうどPTAが終わってから40代50代の空間の世代、そういった人たちをどういうふうに生かして取り入れていって活動していただくかというような、まだ今からではあるんですけど、そういったこともやっぺいこうかということもしております。ゼ

ひともそういった面で若い人たちの意見というのをぼんぼん取り入れていただきたいと思います。それから、現実的に2040年問題が公表されてもう久しいわけでございます。当の朝倉市も厳しい現状というよりも、切実な問題としてこの2040年問題が出まして、人口問題を正面から取り組み始められたと思います。その矢先に災害が続けて起きておりますけれど、これはこれで人口問題しっかりと取り組んでいかなければならないというふうに思っております。

執行部からいろいろ回答がありました。私は、表現がちょっと不適切かもしれませんが、金太郎あめ的な、同じようなことをやっていくという施策も必要かもしれないけれど、やはりここはできれば地域おこしやその地域で人材の育成、それから防災への積極的な取り組みを行っている、そういったコミュニティを中心にもっとバックアップをしていただきたい、そういった思いがございます。

これに関してはぜひとも、やっぱり頑張っているところにはちゃんと、汗流しているところには行政としても支援していく、いわゆる協働のまちづくりというのを先ほど言われましたけれど、そういったことを実現していくためにもばらまきじゃなくてそういったことを実現させていただきたいと思うんですけれど、最後に部長のほうの意見、また市長も何かあればお願いしたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今議員が、これからの人口減少社会にあってコミュニティを、しっかりと地域を支えていく大事な機関であると、大事な役割を果たしていただいていますしこれからもそのことが大事であると、そういう趣旨でお話をされました。

その中で、これからの朝倉市を考えたときに、若い人たちがどう考えているのか、我々がひよっとしたらわからないようなところでいろんな活動をしていると。そうしたときに、そのことをしっかりと認識をいたしまして行政として、そして有効な活動であると。

そしてまた、これから先若い人たちの意見として、これは朝倉市に必要であるというようなことを積極的に耳を傾けるといいますか、目を配るといったことがまず大事であろうというふうに思います。

そして、若い人たちがこれから先の朝倉市を守っていく、形づくっていく、そして元気のいい朝倉市にしていく、その役割を若い人たちが担っていただくわけでございますので、今議員のおっしゃった意見は非常に大事な御意見として承りをさせていただきたいというふうに存じます。

若い人というのが、どうしても商工団体の青年部、それから農業する青年の組織、そういった人たちが、ある時期一緒になって地域を元気にしていくという取り組みを数年前やったことがございます。積極的に私も応援したいなということで、その事業等に参加をさせていただいたことも当然でございますし、そして市長になるということについて、私自身が若い人たちの意見を積極的に取り入れるといったことも申し上げているところでもござ

いますので、堀尾議員が言われました件については、非常に大事なことということで捉えさせていただきます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 若い人たちも含めた市民と行政の協働の参画、地域づくりというのをぜひとも進めていただきたいというふうに、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、国道322号八丁峠トンネル開通に当たつての問題点ということでお尋ねしたいと思ひます。

馬田地区のほうが、東田あそこまでバイパスができております。秋月のほうが今八丁峠トンネルを、ことし貫通式がありましたけれど今改装、トンネルの中のいろんな取りつけが行われております。

実は私、先週八丁峠トンネルを見る機会がありました。実際行ってきました。これはどうやったかな、八丁峠道路が4.5キロありまして、その中でトンネルの延長が3.8キロ、そのうちの3分の1ぐらいが朝倉市のほうからということでもあります。

感覺的には大分進んでおりますが、向こうの資料によると今まで22分かかっていたと、向こうに行くのに、向こうからくる。それが5分ぐらいで通行できるから10何分、約20分の改善ができるというようなこと書いてありました。

しかし、ここから北九州に行くために高速乗って鳥栖まで行って以降北九州まで行くことを考えれば、相当なメリットあると思ひます。だからこそ通行量も多くなるんじゃないかなと思ひますんで、その前に安川のほうからもいろんな意味で要望出しておりました。そういうことで、そこも一緒に含めて質問させていただきたいと思ひます。

資料によります。これは向こうの資料です。市の商工観光課、これはきょう初めて言ひますんであれですけど、市の商工観光課は開通を見込んで嘉麻市と観光に関する協議を開始したとありますということでございます。来年度以降、ツアー会社へ観光ルートを売り出そうという話も上がっていると。これは平成29年の2月の調査時の向こうの資料ですよ、あそこの国道事務所の資料に載っておりました。

今、甘木それから馬田、それから安川、秋月を通る国道322号のトンネルは工事の最中だと思ひます。嘉麻市側から3分の2ですけれど、もうでき上がっていました大体。下もコンクリートちゅうかしてありました。朝倉市側が今からということ、まだまだアスファルト舗装とかいうのが今から始まっていくと思ひますけれど、平成31年度に僕は開通というふうに聞いております。これに関しては大体間違いないですかね。ちょっとそれは市の認識を確認したいと思ひます。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） ただいま国道322号八丁峠トンネルの開通につきましては、平成31年度内完了ということ、公表されております。年度内のいつというのはまだ未公表ですので、決定次第私どもが情報取得次第皆様にもお知らせしていきたいと思ひてお



ります。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 今部長が言わっしゃったように平成31年度内ということですね。年度内ちゅうとどうしても微妙な線引きがあって、平成32年の3月までということになるかと思いますが、もっと早くなるんじゃないかなという感覚を僕は持っております。

ただ、いずれにしてもトンネルが完成して、極端に言ったら秋月トンネルくぐってきて長谷山を通過して千手を通過して下淵を通過して持丸来た。コンビニがありますけどそこまで通行できると思いますが、まずは西鉄甘木線ここはいわゆるクランクということになっております。この解消がなされない限り大型車両の通行には支障を来し、国道322号の朝倉市内の道路としての完成はないというか、意味がないんじゃないかなと思います。

それで、甘木鉄道のクランクの解消のためのショートカットの計画の進捗はどうなっているのか。具体的なことはまだあれかもしれませんが、また住民に対するの説明とかいうのもなされているのか、その辺をちょっとまずお尋ねをしたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 国道322号のショートカットを含む都市計画道路としての計画変更後、これまでの議会全員協議会説明等から大きな進捗はございません。都市計画道路の法手続のために要した住民説明会以降の住民説明会は行われておりません。

今年度、県の道路事業として南側の東田交差点から北に向かって千代丸堤線の交差点付近までの実施測量が行われています。測量作業の開始前にチラシによる周辺住民への測量調査の周知は行われておりますが、説明会という形では行っていません。実施測量の結果をもって、住民への事業計画の説明予定であります。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） ということは、全協なんか等で説明受けた以上の進展はまだないという形で判断していいですか。はい。

またもう一つお尋ねしたいんですけど、ショートカットをするために、また国のほうから補助が何かいただいて工事を進めるような形になってくるための、補助を受けるための条件として、甘鉄のところの周辺の開発、整備計画、これを策定するというのがあったと思います。3案提案されとったと思います。

これで経済効果がある程度報告しなければ、このショートカットのあれは補助を受けられないということは聞いておりますが、こちらの計画は今どうなっているんでしょうか。それもちょっと含めてお願いします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 駅周辺整備計画に関しましては、平成29年度に国庫補助事業による周辺調査を予定しておりましたが、平成29年7月の豪雨災害により一時中断している状態です。平成29年2月17日の全員協議会で、エリアを大案、中案、小案と示し、

中案を基本に調査を行うこととしておりました。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） そうなるとまだまだ先に進んでないというふうに判断しておりますが、何でこの話をするのか、実はこの話は私はもう3回目になると思います。

どういうことかといいますと、以前から一般質問の中で申し上げてましたように、安川コミュニティ協議会より八丁峠トンネル工事に伴う道路改良工事等について、住民の安全確保のため早急に対応するよう平成24年9月に市を通じて県道整備事務所に20件以上の箇所の改善要望を出していると思います。

またその後、県道整備事務所よりこんな件数が多くてはとてもじゃないけどということで、安川コミュニティに絞って3点に絞ったところで、改めて平成27年の3月に出しております。

当初の予定では、開通が1日に4,000台ぐらいの増になるということで、これはこの前見学に行ったときに聞きましたら、最低4,000台というのは変わっていないということです。

単純にこれ24で割れば1時間当たりの台数的なものが出てくるわけですけど、開通した後では、何で僕はこれ言うかといったら、開通した後に改良工事をするというのは難しくなるちゅうことですよ道路障害が多くて。

ですから早急に取り組みを、朝倉市は主体じゃない、でも朝倉市を通してコミュニティも出しております。県土整備事務所に働きかけをしていただきたい、これが一番なんです。

ちょっと確認します。その資料に関して、今朝倉市としてはどのような対応を県のほうとしてあるのか教えていただきたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 地元から御不安の交通対策、安全に対する道路の不安に対しまして、コミュニティからいただいた御意見につきましては、市としましてもその都度県のほうへ要望書という形で進達をいたしているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 形が見えませんが、確実にやってもらっているという前提条件でちょっと話をしたいと思います。

現在、改善の要望書というのを3カ所の分を出しております。1カ所に関しては回答を得ております。御存じだと思います。それほど何か、下湊のバス停、あそこが子どもたちは帰ってくる時バスからおりたときに狭い、ないんです歩道が。ですから事故に遭いやすいんです。

雨降りなんかであればおりたら傘をさす、そしたら大型車が今通っています。小石原川ダム、八丁峠トンネルでダンプとかトラックとかトレーラーとか通っています。だから、そういったことを考えれば早期にやっていただきたいと。そしたら、それに関しましては

県のほうも対応していただいております。

ですから、これは早急に、稲刈りも終わりましたので県のほうが対応していただくと思いますが、長谷山付近、長谷山ですね、小学校の入り口になりますけど、ここの信号機が2つありますけどこれ100メートルもないからできないということの判断です。

ならばその安全対策をどうかせんと、八丁峠トンネルから下り坂ですからおりてくる、おりてきたときに信号が青であれば、そのままずっとカーブを来たときに見えんわけです。信号機のない横断歩道を子どもたちは渡りよるわけです。

朝間は区会長さんなり交通指導員がちゃんと立ってから指導されていますけれど、いきなり子どもがあらわれてくる、そういったふうな状況も出てきますので、そこ辺の安全対策というのをぜひともお願いしたい。

それからもう1つ、持丸地区の惣和工業の跡地、今は小石原川ダムのゼネコンの事務所があります。このところのカーブの見通しが悪いということで、今は地元のダンプ、トレーラーなんかはお互いわかっていますから譲り合っているんですね。でもそこにちょっと1軒の家があるわけです。

そんな中で、今は譲り合っていますけど、今度また八丁峠トンネルができて交通車両が多くなってきてお互いがわからんままぼんと、突っ込んでくるちゅう言い方はいかんですけれど、通行していく中でお互いがそれわからなかったら、交通事故もしくはその家屋に接触する、そういったことも考えられるわけです。ですからこの辺を、現地を見ていただいた上で県のほうにしっかりと働きかけをしていただきたいと思います。

それから、持丸バス停から持丸北までの間が歩道がない、これも御存じだと思います。そこを歩いて通ってあるんですよ人が。前質問したときに、実はその小石原川沿いに舗装してから道をつくるとるんだと、そこを使っていたらいいというようなことも言われました。でも、結果的に住民の方が使っているのはその国道322号のほうなんです。

それで、ぜひともここの歩道、多分井上部長は大体道はわからっしゃると思います。建設課の方は。国道と圃場の間に水路があります。そこをふせてどげんかでけんかとかいう形も出てきてるわけです。これは私が議員になる前からの問題でもございます。実際、国道は八丁峠トンネルができて4,000台とかいう部分が出てきたら、本当に工事は不可能になってくると思います。そういった面では、ぜひとも力強く県のほうに要望していただきたいと思います。

この件に関して、何度もなるかもしれませんが、ちょっと部長、対応どげんされるかお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 何点か、交通安全上の御不安な箇所については、これまでも御意見をいただいているところでございます。

長谷山交差点の小学生の通学路に当たる信号設置につきましては県とも協議し、信号機

設置について警察協議も行ったところでございますが、信号機と信号機との距離が近いというようなことで設置できないという回答でございましたが、現地には横断歩道があり小中学校の通学路であることから、何らかの安全対策が必要であるとは考えておるところでございますので、今後とも県と協議していきたいと考えておるところでございます。

それから、持丸北に位置する道路が狭くて家屋が建設している状況で、非常に歩行者が通行する歩道の確保ができていないところにつきましても、地域よりは平成27年に改善提案書をいただいて再度出していただいているところでございます。市といたしましても、今後とも強く県に要望していきたいと考えているところでございます。

あとバス停のほうにつきましては、前向きな地元交渉が行われて地権者との協議が交渉中でございますが、同意が得られれば取り組みがなされると考えているところでございます。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 今、2つのことをまとめて私も言ったような形になりますんで、誤解していただいたらいかんところは、ゼネコンの本体の事務所があるところ、そこは見通しが悪いんで家屋の移転も含めて、カーブをもう少し買収していただいて直線にしたい、見通しをよくしていただきたいというのが一つ。

もう一つは、歩道がないというのは、持丸のバス停がございまして。それから下が歩道がないんです。ですから、そこを雨降りでも通っている人がいるわけです。だからその歩道の設置、この2つは分けて考えてください。

ただ歩道の設置にしても要望があるって、地権者の同意が得られれば進められるということは、地権者の判取りとか何でもしますし、やっぱりそういったことは私たちもしてくれしてくれただけじゃなくて協力はしていきます。だからやっぱり私たち、安川のコミュニティのほうも住民の安全を考えて出していますんで、ぜひともそこは前向きにお願いしたいと思います。誤解のないようにちょっと分けて説明させていただきました。

それと、時間もせってきましたんで続けて言いますが、さっき国道322号と言いましたけれど、八丁峠トンネルができてもう少し、もっと影響が出てくるのは夫婦石からの筑前町の野町の県道です。こっちのほうも被害が出てくるのではなかろうかと思っております。

実際の話が、長谷山野町線というのがありますけれど、住民安全確保のため実際県のほうで道路拡幅の工事を進めてもらっております。これは事実でございます。ただし、夫婦石の河川が文化財というような形になってきまして、線形の変更これがありまして、買収等がまた変わりますと家の移動、ですから当然建て直しとかいうのも出てますけれど、そういうこともあります。

ここも結果的に、子どもが1回事故に遭ったりしていますんで、実際の話がこの住民からの要望で安全対策を打ってくれと。そういうことで市から県に言っていただいている工

事です。ですから、これに関してもぜひとも市としても県のほうにしっかりと対応していただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） トンネルが開通すれば、御指摘の箇所の県道夫婦石野町線の通行車両がふえることは予想されております。福岡県で、現在道路改良工事が進行中で用地補償交渉等が難航しているというような情報をいただいております。

工事に着手できない状況でございますのは引き続き交渉を行い、早急に関係権利者との同意をとっていただくよう県にお願いしながらも、市としてできる協力等を行っていきたいと思っております。その際、地域コミュニティからの関係者への御協力等もお願いしていきたくて考えているところでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） ぜひともお願いしたいと同時に、同時に地域でできることはやりますから、やっぱり情報というのはぜひとも入れていただきたいと。こっちから催促してから何かばたばた来るっちゃいかんで、そこ辺はちょっとよろしくお願いしたいと思えます。

それから、済みません。もう時間がなくなってまいりましたが、3つ目のダムができつつあります。それを活用した取り組みというのでちょっとお話をさせていただきますが、ちょっと話がそれると思いますが、聞いていただきたいのは、秋月の町に貸切バスが20台来ましたと。駐車場にとめて20台、1台から50人ぐらいですから20台来れば1,000人ぐらいの方が杉の馬場に溢れたということです。

東南アジア、具体的には中国系の方がクルーズ、客船で福岡博多港に着いてそれからこっちに、その中のA班かB班かC班か知りませんが、秋月のほうに来ていただいたということらしいです。でも、結果的に平日で店も開いていないということで、対応もできないまま杉の馬場を見ていかれたら、そのまま帰らっしゃったということでございます。ビジネスチャンスもあるんですけど、そのビジネスチャンスを逃したんじゃないかなというふうに思っております。

ちょっとお尋ねしますが、災害が2年続けて起きました。それで朝倉市への入り込み客というのがまた減ってきたのかなと思っておりますけれど、今大体どのくらいぐらいの入り込み客があるのかちょっと教えていただけますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 秋月地区への入り込み客数でございますけども、平成25年が33万人、平成26年が31万人、平成27年が30万人、平成28年が30万人、平成29年が28万人と、大体30万人を安定して推移しているという状況、入り込客数でございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） 30万人前後という部分で、行ったり来たりしてるということでご

ざいます。これは地域の努力というのも当然あるでしょうから、そういった面はやっぱり取り組んでいく中でやっていかないかんと考えております。

ぜひとも市としてはそういったものはビジネスチャンスというか、そういったことも含めてツアー会社なんかとタイアップしてからそういう情報入れられるようなそういうこと、それから地元にも秋月は観光協会等ありますし、そういったところとタイアップしていただければ、やっぱり少なくとも少しでも地域も潤ってくるんじゃないか思いますんで、よろしくお願ひしたいと思います。

江川、寺内、小石原川ダムの観光資源としての活用するにはということでお尋ねしたいと思ひますけれど、実は11月29日に、水資源機構主催の小石原川ダム工事現場見学、きらきらナイトバスツアーというのに参加してきました。夜です。

夜間の工事現場を見らんですかということで、ちょっと涼しゅうございましたけれど行ってまいりました。こうこうと照らされて夜間照明の中で、工事車両大型の、といつても遠くから上から見ますから小さく見えますけれど、現場の中行き来しているという分、ちょっと非日常的な感覚で見させていただきました。そこはその日は240人から250人の方が現場で働いていると、昼間は650人ぐらいということで聞いております。

その日は20名ぐらいの参加で行きましたけれど、大体作業というのは交代で、24時間体制でやっているということでございます。余計なことかもしれませんが、ぜひとも皆さん方も参加していただいているいろんなツアーに、していけばいいんじゃないかと思ひております。12月にも同じようなツアーがあるそうです。12月22日だそうです。

それと、私九州では朝倉市だけかと思ひておりましたら、日田市も3つのダムがあるということを初めて知りました。朝倉市は、今できている小石原川ダムができれば3つのダムができる。九州はここぐらいなもんだらうと思ひとつたら日田市も、たしか合併もしましたしそういった面でふえたのかなという思ひがあります。

新聞等で知りましたけれど、新聞等の発表がありまして林市長も載っておりましたけど、朝倉市と東峰村、そして独立行政法人水資源機構の関係者が意見交換をし、ダム湖と周辺の観光資源を連携させ、活性化と九州豪雨からの復興を目指すとし、年内に具体案をまとめるとあるというふうに新聞載っておりました。いかがでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 3つのダム湖による朝倉東峰地域の復興戦略会議の進捗につきましては、第1回の会議を8月31日に朝倉市、東峰村、水資源機構の3団体により開催し、朝倉の魅力、3つのダムに求めるものは何か、将来の地域の姿、ダムのかかわり方など等を自由な意見を述べ、ダム周辺を活用した地域の活性化方策について会議を行ったところです。

第2回目の会議を今月予定しているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） ぜひとも具体化していただきたいと思います。ならこういったふうな形で提案を出していただきたいと思います。

時間が少なくなってまいりましたが、小石原川ダムに関しましては洪水調整機能があるということで、ことしの7月の豪雨災害みたいな形での水害、これが多少でも減るんじゃないかなという期待はしておるんですけど、これのダム湖を観光資源としてぜひとも使っていただきたいと思っております。

いろいろあると思いますけれど、やっぱ市民の方から聞くとマラソン大会をしたらどげんかとか、ツールド何たらかんたらとかいってから自転車競技をしたらどうかとか、また三奈木の寺内は前から私も体育指導員していましたから、あそこで大会、持久走じゃないけどマラソン大会みたいなやつが、ミニチュアがあってありました。

それを3つのダムをつなぐということ、それから当然もう一つあるのは、筑前町からいわゆる小石原までの一つの流れができて、それからおりてくれば今度は原鶴、そういったふうな一つのぐるっとこう回遊できるのもできますんで、ぜひともそういう活動をしていただきたいと思っております。

ちょっとお尋ねしますが、大体3つのダムの何か計ってるというふうに聞きましたけれど、大体わかりますか。あの3つのダムの距離とか、僕も図面上で見て見ました。こんなくらいかなというのは。

でも何かそういったものは3つのダムが距離的なこと、それからその3つをしたらどんくらいぐらの距離になるかというのがわかるならちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 小石原川ダムの周囲は約7.7キロで、寺内ダムは約6キロ、江川ダムの上流、小石原川ダムの建設で道路がつけかえられておりますが、小石原川ダム建設前までの状態では約12キロということで聞いております。

ダム間の距離につきましては、3つのダムの距離が直線で見ますと寺内ダムから江川ダムまでが約4キロ、江川ダムから小石原川ダムまでが約3キロ、道路では寺内ダムから江川ダムまでが約12キロ、江川ダムから小石原川ダムまでが約5、6キロと思われま。以上です。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員。

○8番（堀尾俊浩君） まだダムが完成しているわけではありませんので、今から水資源機構との話し合いとかあると思いますけど、せっかくなら小石原川ダムの湖畔、桜とかモミジとかの植樹というのは当然でしょうけれど、やっぱり憩の場、そういったものもぜひとも今のイベントとかそういうことだけじゃなくて、やっぱ地域の活性化になるような話し合いとか、それをしていただきたいと思っております。

それから、先ほど言いましたように筑前町、東峰村とかは広域市町村ということでつな

がっております。ですから、せつかくならばそういったところとのタイアップをして、また旅行会社とタイアップをしていただいて、特に朝倉市の魅力というのを知っていただき、また空き家バンクとかいう形で市のほうもしていますから、よそからの定住そういったこともぜひともしていただきたいというに思います。

それからもう一つあるのは、タイアップと同時に先ほどSNSというのが出ました。そういった形で情報の発信というのをしっかりしていただきながら、どこでもできると思いますが今回が一番いいチャンスだと思いますので、ぜひとも3ダム間を観光資源とした取り組みを具現化していただきたいと思います。

いろいろ、まだ時間があればよかったですけど、済いません時間がなくなりました。次回また話したいと思いますので、きょうの一般質問終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（中島秀樹君） 8番堀尾俊浩議員の質問は終わりました。

午後1時10分まで休憩いたします。

午後零時9分休憩